別紙第６号様式

国立大学法人香川大学学長候補適任者所信

平成 23 年　5月　6日

国立大学法人香川大学学長選考会議議長　殿

学長候補適任者　氏名　長尾省吾　（自署）

私は３０余年にわたり大学教員・脳神経外科専門医として、学生、研修医、専門医の教育に携わり、医学研究、診療を多くの仲間と行ってきました。この間、附属病院長として、法人化と新医師臨床研修制度の荒波にもまれながらも、病院職員の意識改革、病院機能の向上、経営の健全化に努め、研修医の増加や年数億円の黒字化を成し遂げることができました。退職後は、香川県厚生連理事長として二つの総合病院の運営にあたらせて頂き、経営健全化を成し遂げ、一総合病院の新営事業をスタートさせることができました。これらの経験を通じて、トップの姿勢こそが組織体全体の雰囲気、緊張感、土壌に強く影響を与えるという事を実感しました。また、香川県医療政策アドバイザーとして、県医療行政にも参画させて頂きました。香川大学を外から見た３年間は、部局の視点ではなく、香川大学全体を公平に見る視点を与えてくれる良き期間となりました。

各学部には設置目的・社会的使命があり、諸先輩の努力の積み重ねで現在に至っています。この歴史を踏まえて、時代のニーズにマッチしたものとして後輩に受け継いでいかなければなりません。一方、情報発信不足もあると思いますが、近年地域の皆さんからは、香川大学は元気が無い、目玉がない、地域への還元が少ない、プロジェクトはあっても結実が少ない、不祥事が多いなどと耳の痛い指摘も承っています。

香川大学は、専門職養成、職業人養成（専門学部）、そして普遍的な教養教育（リベラルアーツ）を担っています。大学進学率が 50%を越える「ユニバーサル」段階においては、社会からの多様なニーズへの柔軟な対応を含め、個性的な大学改革は避けられないと思います。時代のニーズに合った教養教育へのリメイクは、全学部共有の問題として認識し、特別プロジェクトチームを結成して、早急に検討を開始しなくてはなりません。現在問題になっている新学部創設に関しても、学部名そのものが揺れ続けるのは、“リベラルアーツ”と“職業主義”の間で揺れる香川大学の姿の反映とも考えられます。新学部構想については、足腰が強く将来にわたり地域に根ざす学部として、既存６学部との連携や「専門性を持つ教養人育成」なども視野に入れながら、香川大学の機能に合わせた基本方針の決定が急がれます。

大学の使命は教育（人材育成）、学術研究、社会貢献（国際貢献、産学官交流、医療、福祉等）ですが、この三本柱をいかに効率よく、かつ円滑に進めていくかが重要です。

教育・人材育成は大学使命の中で最優先されるものであり、世界に通用する人材育成を視野に入れながら、地方大学の役割である地域のニー

ズに合致した人材の輩出が重要です。それには大学内外の意見を広く取り入れる仕組みを作り、柔軟な思考で不断に組織を点検する事が必要です。また、学生の社会性の希薄さが問題になっていることから、入学早期に、例えば介護実習を体験して、礼儀礼節を学び、弱い立場の者への思いやり、将来の自分像を実感し、“社会と臍の緒で繋がった自分”を実体験するのも一つの手段と考えています。そして、社会の負託に応えられる卒業生を輩出するために、教育内容の評価、質の向上に努め、予習を課し、自学自習を勧め、学生の成績評価を厳格にして４年間を通した学びの場の充実を図らなければなりません。それによって、賢明な判断力、建設的な批判力、果断な行動力を持った日本再生の人材を育てます。

研究では、秀でた研究者の育成、萌芽的研究の育成と共に、総合大学の利点を生かし、地域ニーズに合致した集学的プロジェクトを推進することが重要です。香川大学の研究者のみならず外部からの優秀な研究者の参画・交流も決定的に重要と思われます。

地域貢献においては、地域は大学に何を求めているのかアンテナを高くして、学部横断的に迅速かつ効率よく結果の見える取り組みを推進します。

管理運営については、役員会と教職員・学生との意思疎通と合意形成の明瞭化および説明こそが大切と思います。役員会の独断的な施策は組織内の軋轢と誤解を生み、大学力が損なわれます。とりわけ国立大学法人法に規定される経営協議会は、社会の視点から大学を点検する上で重要であり、教育研究評議会は学内の意思をまとめ大学運営を創造的に進める仕組みです。このような“基本的な仕掛け”を十分に生かした大学運営が重要です。

財政問題は、法人化による運営費交付金削減が根底にあり、さらに厳しくなるため外部資金の獲得策（県・地場産業との地域連携プロジェクト、科学研究費等）を加速させます。

現在の香川大学は様々な問題を抱えています。その中でも研究院創設、人件費問題などは早急に整理し、大学構成員の納得できる方針を定めたいと考えます。最大の問題である大学構成員全体を覆う無力感を克服し、英知と才覚を結集して、真に地域に根ざした学生中心の大学を実現し、“ライジング香川大学”を合言葉に、学生教職員が香川大学に所属してよかったと感じ、そして地域の方に信頼され、尊敬され、愛着を感じて頂ける大学にしていきたいと思います。

私は構成員との意思の疎通を図り、熱く大学の夢・将来像を語り、後輩により良い大学としてバトンタッチ致します。

※　学長候補適任者としての抱負を含めて、2,000字程度を目安に記入してください。